

6月における水稲病害虫の発生状況は以下のとおりです。

巡回調査(56地点)は、6月上旬(6月1～4日)、6月中旬(6月14～18日)に実施しました。

○ いもち病

- ・6月上旬の調査では1地点で残苗での発生が確認され、発生地点率は1.8%と平年(0.5%)より高い状況でした。
- ・6月中旬の調査では2地点で残苗での発生が確認され、発生地点率は3.6%と平年(0.7%)より高い状況でした。なお、本田での発病は確認されませんでした。

○ ばか苗病

- ・6月中旬の巡回調査では、発病株率は0.03%、発生地点率は7.1%で、いずれも平年(発病株率0.15%、発生地点率11.8%)よりやや低い状況でした(図1)。

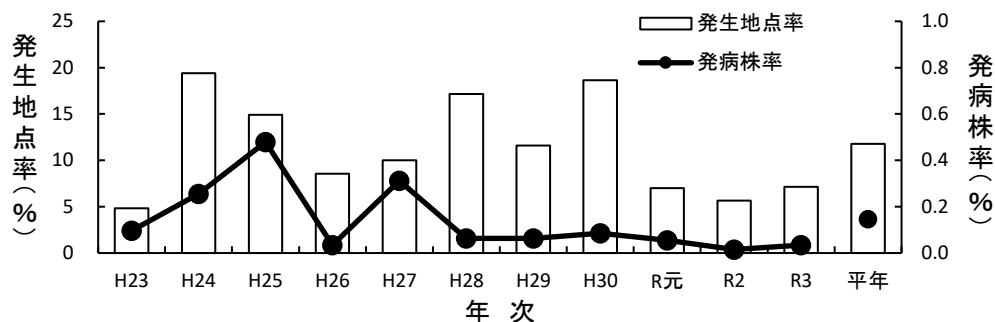


図1 ばか苗病の発生地点率及び発病株率の年次推移(6月中旬)

平年:過去10か年平均

○ 紋枯病, 黄化萎縮病

6月中旬の巡回調査では発生は確認されませんでした。

○ イネヒメハモグリバエ, イネハモグリバエ

- ・イネヒメハモグリバエ被害の発生地点率は、6月上旬の巡回調査では3.7%で平年(12.8%)よりやや低く、6月中旬の巡回調査では10.7%で平年(19.3%)より低い状況でした(図2)。
- ・イネハモグリバエの被害は6月上旬、中旬ともに確認されませんでした(図2)。

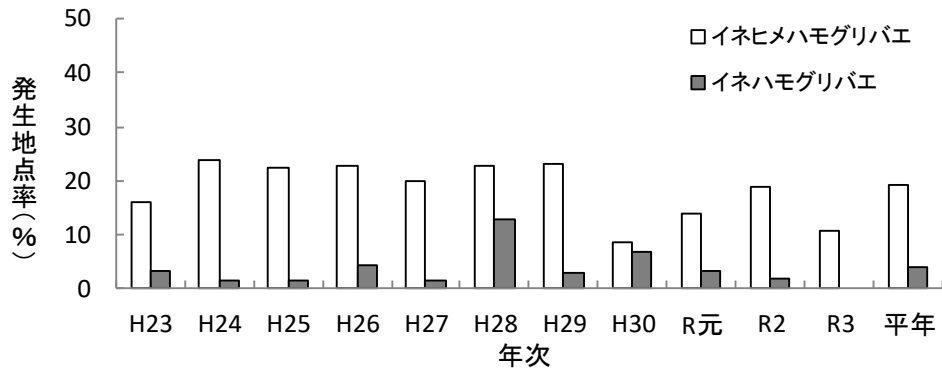


図2 イネヒメハモグリバエ及びイネハモグリバエ被害の発生地点率の年次推移 (6月中旬)

※平年:過去10か年平均

○ イネドロオイムシ

- ・6月上旬の巡回調査では、幼虫の被害の発生地点率は5.6%、卵塊の発生地点率は3.7%で平年(被害4.5%、卵塊4.2%)並の状況でした。
- ・6月中旬の巡回調査では、幼虫の被害の発生地点率は10.7%で平年(13.0%)並(図3)、卵塊の発生地点率は5.4%で過去8か年の平均(4.3%)並の状況でした。

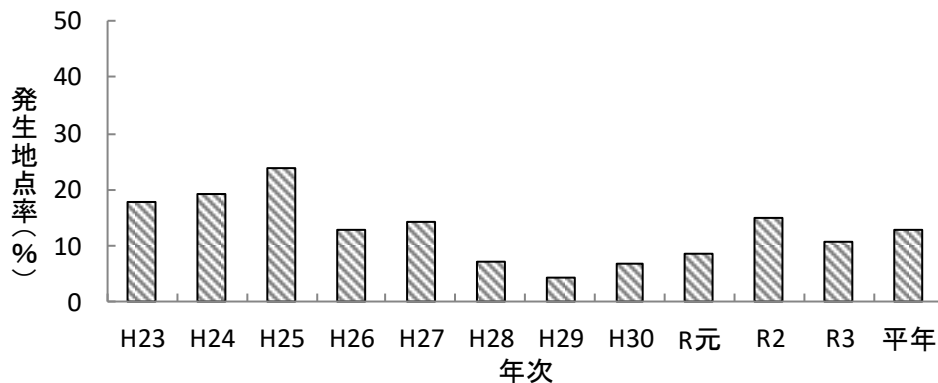


図3 イネドロオイムシの被害の発生地点率の年次推移 (6月中旬)

※平年:被害の発生地点率 過去10か年平均

○ イネミズゾウムシ

- ・6月上旬の巡回調査では、成虫の被害の発生地点率は24.1%、成虫の発生地点率は7.4%でいずれも平年(被害50.5%、成虫22.5%)より低い状況でした。
- ・6月中旬の巡回調査では、成虫の被害の発生地点率は28.6%、成虫の発生地点率は5.4%でいずれも過去6か年の平均(被害35.1%、成虫9.3%)よりやや低い状況でした(図4)。

※平成27年より調査開始

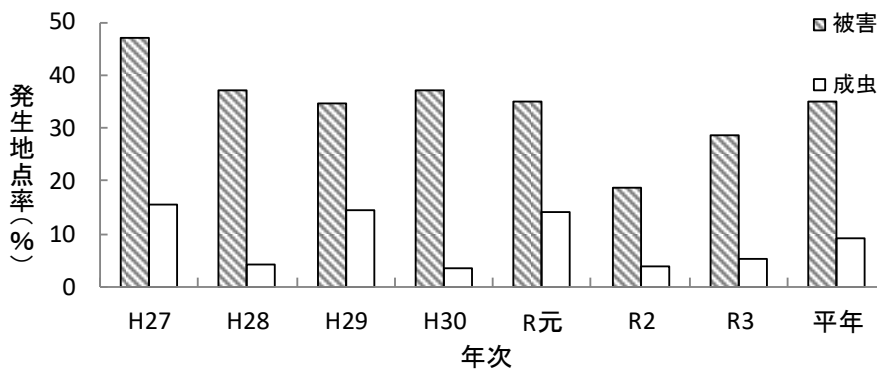


図4 イネミズゾウムシの被害と成虫の発生地点率の年次推移
※平年：過去6か年平均

○ 斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ）

・6月中旬の調査では、水田周辺の牧草地(6地点)におけるアカスジカスミカメ成虫の発生地点率は66.7%で平年(85.3%)よりやや低く、すくい取り虫数は27.5頭で平年(28.8頭)並の状況でした(図5)。

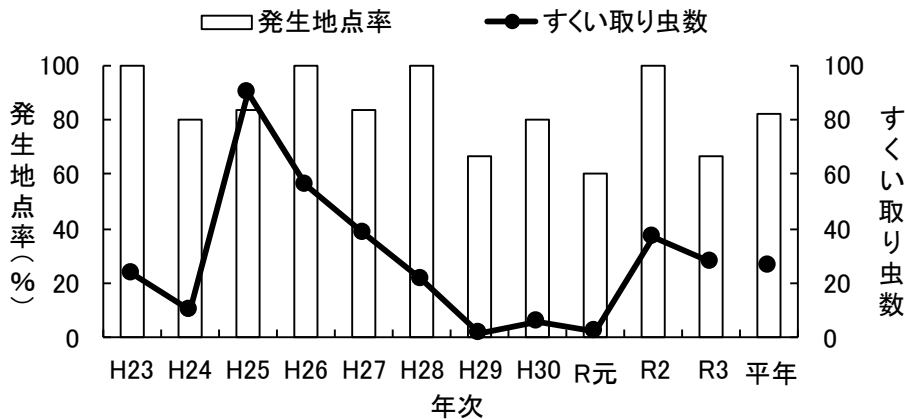


図5 水田周辺の牧草地におけるアカスジカスミカメ成虫の発生地点率とすくい取り虫数(6月中旬)
※平年：過去10か年平均 20回振り

○ コバネイナゴ

・6月中旬の巡回調査では、水田の畦畔際25株における発生地点率は66.1%で過去5か年の平均(55.4%)よりやや高く、虫数は3.2頭で平均(7.2頭)よりやや少ない状況でした(図6)。

※平成28年より調査を開始

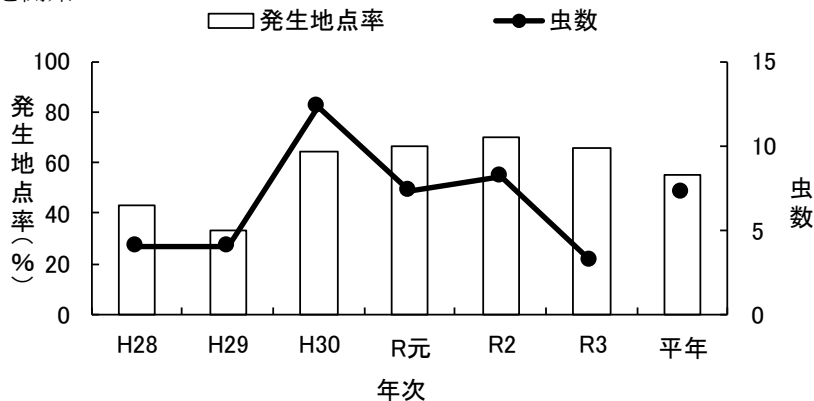


図6 コバネイナゴの発生地点率と虫数の年次推移(6月中旬)
※平年：過去5か年平均